

船員の生命と生活を脅かす海賊行為の現状

こちらは、英文記事「[Modern piracy is a threat to the lives and livelihoods of seafarers](#)」

(2021年10月28日付)の和訳です。

現在、海賊・武装強盗事件の報告件数はこの数十年で最も低い水準となっていますが、乗組員に対する暴力事件は世界各地で依然として多くなっています。最近では、ギニアのコナクリ（Conakry）錨地で停泊していた船舶で乗組員が強盗に激しく殴られ、Gardのコレスポネントが現場でのアテンドを要請されたケースもありました。



アフリカにおける Gard のコレスポネントである TCI Africa / Eltvedt & O'Sullivan 社によると、コナクリ錨地での強盗事件は、件数が増えているだけでなく、乗組員に対する暴力の度合いも深刻化しているようです。少し前には、ある船で乗組員が強盗に激しく殴られ、現金や携帯電話、電気製品を強奪された事件があり、同社が現場でのアテンドを要請されるということもありました。幸い、亡くなった方はいませんが、船員の生命や生活が海賊行為によって今も脅かされていることがこの事件で改めて浮き彫りになりました。同社ではギニアに向かう船舶に対し、警戒態勢を敷き、可能であればコナクリ錨地での長期停泊を避けるよう推奨しています。

上記の情報を提供してくれた TCI Africa / Eltvedt & O'Sullivan 社に感謝申し上げます。

ギニア湾での事件数は減少傾向にあるものの油断は禁物

国際商業会議所（ICC）国際海事局海賊情報センター（IMB PRC）が発表している[最新のグローバル海賊レポート](#)によると、今年の1～9月に発生した海賊・武装強盗事件は97件でした。これは1994年以来最も低い水準で、前年同期比で132件の減少となりました。最も顕著な減少を見せたのはギニア湾です。同地域では今年の1～9月に発生した海賊・武装強盗事件数が前年同期比で40%減少しました。これはナイジェリアの状況が改善したことが主な理由と考えられます。

とはいえ、同地域で最近起きている事件を見る限り、ギニア湾での海賊リスクを決して過小評価してはなりません。[今年10月25日](#)には、ナイジェリアのブラス（Brass）沖南西約149海里を航行中のコンテナ船が海賊（人数不明）に襲撃される事件が発生しています。乗組員はシタデル（避難区画）になんとか逃げ込んで安全を確保したものの、船内の各種備品を盗られてしまいました。[同じ日](#)の後刻には、同海域のさらに東方でオフショア支援船（OSV）が襲撃されています。現時点で乗組員の

安否は不明です。データからも分かるとおり、この海域では一般的に4～9月の雨期の間は襲撃事件の数が少なくなっています。IMB PRCが昨年ナイジェリアで集計した35件の事件のうち18件が10～12月に発生しているというデータもあります。そのため、天候が回復すれば、かなり沖合でも襲撃事件が増えるおそれがあります。

今も続く暴力事件

事件の報告件数が減っていることは喜ばしいことですが、乗組員に対する暴力事件は世界各地で依然として多くなっていることから、IMB PRCは引き続き警戒を怠らないよう注意を促しています。報告によると、今年1～9月までに誘拐51名、人質8名、脅迫5名、負傷3名、暴行2名、死亡1名の被害が出ています。いわゆる「深刻度1」の事件のうち半数以上はアフリカ大陸で発生しています。このレベルは最も深刻度が高く、人質、暴行、殺害、誘拐、脅迫など乗組員に直接の影響が及ぶ事件を表すものです。

今年1～9月に世界で発生した海賊・武装強盗事件のうち半数以上が錨泊中に発生している点、銃やナイフなどの武器が用いられる事件が多かった点にも注目です。**ペルーのカヤオ (Callao) 錨地**はこれまで長年にわたって強盗事件の多発海域とされてきましたが、今年もその状況に変わりはないようです。フィリピンのマニラ湾でも武装強盗事件が度々起きており、保安上の問題とされてきました。またギニア湾については、今年1～9月に特に事件が多発した港・錨地としてIMB PRCが集計した中に、ギニアのコナクリ、アンゴラのルアンダ (Luanda) がともに含まれています。

引き続き警戒を

海賊多発海域に入る前には、入手した最新情報に基づいた船舶保安計画の見直し、その航海に合わせたリスク評価、乗組員に対するブリーフィングと訓練、船舶の緊急時連絡計画の準備・テストを行うことが重要となります。適切な防止対策を取り入れるとともに、[ベストマネジメントプラクティス \(BMP\) 西アフリカ](#)、[BMP5](#)、[Global Counter Piracy Guidance for Companies, Masters and Seafarers \(船会社・船長・船員向けのグローバル海賊対策ガイダンス\)](#) など、業界向けに発行されているガイダンスやベストマネジメントプラクティス (BMP) に従ってください。

錨地で停泊している間は特に襲われやすいため、ハイリスクの港・錨地に停泊する際はいつも以上に警戒を徹底してください。なお、適切な見張りは防衛効果が特に高い方法とされており、不審な接近行動や攻撃を早期に発見して防衛策を講じることができます。

詳しくは [Gard ウェブサイトの「海上での海賊行為と武装強盗」](#) を参照してください。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されており、翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。